

たわわ



地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2006年10月27日

71号

NPO法人

「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

障害者たちの活動満開

— 生き生きと秋を彩る自己表現で —

もう11月の声を聞きますと、あらためて時の流れの速いのかんじます。芸術の秋などという言葉も古いのかと思いますが、この地域の障害者関連のところでも、多くの障害者たちが作品を寄せる芸術祭、個人の作品展、作品の発表と販売をかねた織物展と休むまもなく、どこかでいろいろな催しが展開されています。

先日は、活動ホームでも「秋まつり」があり、こちらの方は、近隣の子供たちや、お年よりも交え、ひとみ座の人形劇団による人形劇や、若いミュージシャンによる音楽の演奏会が持たれました。庭では、障害者の余暇活動グループ「しもだ青年クラブ」が焼きたてのケーキとコーヒーのお店を出し、「支える会」のガレージセールでにぎわいました。

いそがしい中にも、生き生きとした交流と、活動の秋のひとこまです。

また、11月1日の港北区福祉大会には、6月の写真展のパネルを掲示を依頼されました。

11月25日には「支える会」主催の学習会「石渡先生を囲む会」も予定しています。気軽に参加できる会にしたいと思いますので参加をお待ちしています。

秋まつり・バザーから

山田きち



10月21日天候に恵まれ、活動ホームしもだの秋祭りが行われました。

支える会では、ガレージセールに参加しました。衣類、雑貨、軽食、手作り品とたくさんの品物が集り、売る人、買う人の会話を聞いていると、とても和やかで楽しい雰囲気でした。

人形劇が終わった後で、バザーのほうに来てくれる人も多く、とても賑やかになりました。品物を提供してくださった方、当日のお手伝いをしてくださった皆様、ご協力本当にありがとうございました。



グループホームの充実を！

横浜市グループホーム連絡会 室津茂美

それぞれの制度の報酬額も決まり、その内容がようやく明らかになり、障害程度認定区分調査もおこなわれ、10月からいよいよ障害者自立支援法がはじまりました。内容が明らかになるにつれて、様々な問題点も明らかになってきました。

グループホーム・ケアホームについて見ると、人件費の単価に大きな問題があります。同じ人員配置基準でも日中活動に比べて単価が低いのです。なぜグループホーム・ケアホームの人件費は低く設定されるのでしょうか。

* * *

障害者自立支援法の施行で、入所施設は日中活動と夜間の生活とに分かれることになりました。入所施設の報酬額を見てみると、夜間の生活にあたる入所支援報酬額は日中活動の1/3なのです。

グループホーム・ケアホーム、入所施設における報酬額を並べてみると、日中活動に比べて、生活にかかる報酬が低いことが見えてきます。その背景には障害者の人たちの暮らしを支える援助に対する軽視、介護に対する軽視があるように思えてなりません。昼間の活動や訓練に対しては専門性が認められ単価が高く、生活に対する援助・介助は専門性が低いものと考えられているのではないのでしょうか。このことは障害者の暮らしの安定を考えると非常に大きな問題です。

* * *

さて、厚生労働省が障害者自立支援法による改革の柱としているもののひとつに、「入所・入院を減らして、地域で暮らす人を増やす」ということがあります。23年度までに6万人の障害者の暮らしをを入所・入院からグループホームや一般住宅での暮らしに変えていくという計画です。ようやく入所施設から出て地域で暮らしたいと願う障害者の希望がかなえられる状況になったのです。

ところが、6万人の人たちが地域での暮らしを実現するためには、グループホームがたくさん必要です。今心配されるのは、グループホーム・ケアホームの報酬額が低く、多くの人たちがグループホーム・ケアホームの運営が成り立つのだろうか心配している状況で、グループホーム・ケアホームが増えていくのだろうかということです。

障害者のみなさんの希望にそった生活を実現していくためには、グループホーム・ケアホームの充実が欠かせません。グループホーム・ケアホームが日本全国にたくさん増えて、施設を出て地域で暮らしたいと望んでいるみなさんの希望が実現できるように、またグループホーム・ケアホームで暮らす人たちが安心して生活できるようにするために、今の制度のだめなところは変えていく努力を積み重ねていかなければならないと思います。

今月のよつばホーム

先日、新吉田町内運動会に参加してきました。運動会当日は多少風があったものの天候にも恵まれ、絶好の運動会日和です。みんな朝食を済ませ、出発までドキドキしながら待機してまゝ。次郎さんは参加賞に期待を膨らませ、勢津子さんは「頑張って野菜をとってくるから」と気合を入れ、藤田さんはマイペースにいつもの音楽を聴いてコンセントレーションを高めています。今回風邪気味で参加を見送った花岡さんは「頑張ってきてね！」とエールを送っています。



さて会場につくなり、次郎さんがトラック1周の徒競走に飛び入りで参加することになりました！次郎さんにとってはかなり長い距離でしたが、無事完走することが出来ました。そして次は勢津子さんと藤田さんの出番です。『新吉田朝市』では見事狙い通りの野菜をゲット☆

こうして無事に参加競技を終えることができました。係の方々色々お世話になりありがとうございました。また来年も参加したいと思います。

第2よつばホーム

今月は10/16～21大倉山のギャラリーで第2よつばホームの入居者、大原友子さんの書・絵・詩の作品展が行なわれました。作品展を見に行った関係者からの感想をお伝えします。

◆やさしいタッチの水彩画に、心を癒され、4つの詩の前で思わず涙してしまった私。一つ一つの言葉の重みに心があつくなりました。力強い書に感動！あの小さな身体で、こんなに強く大きな字を書くと、想像もしていなかった私は、ただただ感動でした。どの作品からも友子さんのやさしさとたくましさを感じました。(ヘルパー 藤井)

◇私は絵画も書もわかりません。1番良いなと思った作品 桜・林・書です。今でも目を閉じると焼き付いて桜の字が出てきます。見に行くと良かった。ありがとう。(ヘルパー 水野)

◆初めて友子さんの絵画、書を見て素晴らしいと思いました。これからは豊かな感性を持って良い作品を描いて下さい。(ヘルパー 寺島)

◇友子さんの作品はとても暖かい感じがします。私にもあんな素敵な詩や絵を書ける才能があればなあと羨ましくなります。これからはいい作品を見せて下さいね。(職員 角井)

◆どの作品からも友子さんの人柄がにじみでていて、とても感動しました。これからは張って書き続けて下さい。次回の作品展も楽しみにしています。(職員 金沢)

かれんの奥の部屋を覗くと友子さんが『あじさい』の絵を書いていた。今回の作品展に展示してあることを聞き楽しみに行きました。どの作品も素晴らしくまた次回を楽しみにしています。(職員 門)

屋)

◆何度か友子さんの作品は見ていますが、いつも思うのは、あんな才能自分にもあつたらなあです。友子さんの詩が大好きです。自信を持って勧めてしまいます。(職員 菅原)



めがねのこえ

この前テレビで 地方の 病院のお医者さんが足りないことを話していました。

とくに小児科は少なくなっていて 病気の子供たちで とても混んでいました。

小児科が無くなる病院もあります。すると その近所の病院には いっそう病人が集り そこがとても大変になり 救急の受け入れが出来なくなります。

お医者さんは 大学に帰ったり 自分も身体がとても大変になって だんだんやめていきます。ドミノたおしです。

びっくりしましたが、産婦人科がなくなった市があります。赤ちゃんが生まれそうな人が 車を運転して遠くの病院へ行ったり、泊りがけで診察を受けに出かけたいへんです。

横浜や 東京などは たくさん病院がありますが、先生も人間だから疲れたり過労で倒れたりします。大変だなと思いました。

* * *

今年の7月に 私の主治医の榊原先生が 突然なくなりました。パーキンソン病だったそうです。

とてもよい先生で いつも細かくていねいに診てくださっていました。私の微熱が続くことも よく調べて 教えてくださいました。

タンはどこにたまるのか、普段は食べ物や飲み物の誤嚥(ごえん)に気を付けることとか 首や手や姿勢のことなど.... 他にもアメリカや外国の福祉機器や「疲れないイス」の写真をパソコンでみせてくださったりしました。予約制でしたが 長いときは1時間以上も話していました。他の先生は親に話すのに、先生は 私に きちんと説明や注意をしてくれました。

そんな先生が亡くなってしまって とてもがっかりして悲しいです。

母は「これから ほかのお医者様にも よくわかっていただくように話していこう」と言います。

テレビで見た地方に比べれば 幸せだと思うけれど 良い先生をなくすのは とてもとても 残念です。

(大原 友子)